

# SOGIEを知ろう 性の多様性尊重考える

SOGIE (ソジー) は、性的指向、性自認、性表現などの性の多様性を示す言葉だ。全ての人々がソジーを持っており、LGBTQ+などの性的少数者も含まれる。九州弁護士会連合会と県弁護士会が9月、鹿児島市で開いたシンポジウムでは鹿児島大学法文学部の原田いづみ教授、第一佐多中学校(南大隅町)の岩山浩司教諭らが登壇し、企業や学校、医療現場の取り組みと課題を報告。個人の性を尊重する大切さを考えた。(肩書は当時)

(五反田和美)

## 「幸せ追求できる環境を」

職場で性的少数者の困難をなくすために何ができるか、意見を交わした。鹿児島経済同友会ダイバーシティ委員会の門田晶子委員長は「20年間暮らした米国で周囲の人は自らの性的指向を自由にカミングアウトしていた。鹿児島では聞いたことがない」と指摘。「リスクが利点より大きいと感じるのだから」と分析し、「誰もが『私は私』と幸せを追求できる、心理的安全性の高い環境」が理想とした。

### ■アウティング

原田教授は「経営者は『マイノリティは必ずいる』という認識で取り組みを進めていくべき」と強調。魅力的な人材を集め、つなぎとめ、生産性が上がれば企業の活性化につながるとし、「経営の観点から非常に重要」と述べた。



岩山教諭は、性の多様性を尊重した学校づくりを紹介した。相談態勢の構築や「身体の性」で分ける校則の見直し、学ぶ機会の提供など幅広い。「LGBTを知らない生徒はかなり減り、自他を大切にするとという生徒が増えた」と成果を挙げた。

原田教授は児童生徒への相談対応について「周囲との情報共有が必要と感じたら、カミングアウトした本人に、ど

の範囲なら知らせていいか確認が必要だ」と助言した。「よかれと思つての、善意のアウティング」が命取りになる可能性がある。気を付けてほしい」と呼びかけた。

### ■医療の課題

キラメキテラスヘルスケアホスピタル(鹿児島市)の泌尿器科科長内田洋介医師は、性自認が出生時の性と異なるトランスジェンダーの人が受ける可能性のある医療として、性ホルモン投与や乳房切除、性別適合手術などがある

と紹介。「治療を受ける前提となる診断ができる医療機関が少ない」と現状を解説した。戸籍上の性別を変更するには手術などで生殖機能をなくす必要がある日本の要件について、世界保健機関(WHO)は必須としていないことにも触れた。

診をためらう一など当事者の医療を巡る壁は多岐にわたる。原田教授は治療方針の説明などについて、家族の範囲を比較的広く捉えて良いとする厚生労働省のガイドラインを紹介した。

### ■権利と法

2023年6月、LGBTなど性的少数者への理解増進法が施行された。同法成立に詳しい日本大学危機管理学部

の鈴木秀洋教授は「不十分なが、性的マイノリティの権利に関して初の法律と言え」と述べた。行政に関し条例や計画策定のほか、相談事業に携わる人材を育成し当事者の二次被害を防ぐ必要性を挙げた。「各部署にLGBTQやジェンダーに関する責任者を置き、情報収集や啓発することが大事」とした。当事者の正責さんは「全ての人『みんな』という言葉にはLGBTQ+の人も含まれている。知ったつもりにならず、自分も誰かを傷つけるかもしれないと、当事者の声を聞いてほしい。当事者は安心できる居場所を求めている」と願った。



個人の性の尊重について考えるパネルディスカッションII  
鹿児島市の城山ホテル鹿児島

プレゼント

▽チョコレート

1、紀陽ビル